

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2873300939		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	ウェルフェア伊丹 グループホーム		
所在地	(〒 664-0873) 兵庫県伊丹市野間北5丁目7-20		
	電話	072-778-5131	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成20年1月30日

【情報提供票より】 [平成19年9月30日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	15人	(常勤14人) (非常勤1人)	/ 常勤換算14.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り		
	地上3階建て建物の2階～3階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,500円	その他の経費(月額)	30,000円
敷金の有・無	有り (270,000円) ・ 無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (円) 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し
食材料費	朝食	250円	昼食 500円
	夕食	450円	おやつ 100円
	または、1日あたり		1,300円

(4) 利用者の概要 (平成19年9月30日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性4名) (女性14名)		
要介護1	7名	要介護2	6名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均86歳 … (最低73歳) (最高96歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北村クリニック	伊丹恒生病院
---------	---------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪急「武庫之荘」駅の北2kmほどの住宅地に建ち、周囲には、畑、公園も点在する静かな環境にある。交通量も少なく、心地良く散歩を楽しめている。入居者と地域との関わりとしては、日常の外出、ホームに併設しているデイサービスの利用者との交流のほか、行事開催、ボランティアの受け入れ…など多くなされている。夏の花火鑑賞や祭りには、近隣の方々にも多く参加してもらっており、地元との交流は上手く進んでいる。ケアの記録方法(様式)を工夫し、また、「サービス改善シート」を備えることで、各種の課題に対して職員全員の共通認識として、これを強く意識できるようになった。利用者との関係を育むためのものとして、職員個々が持つ特技(例えば、切り絵)も、生活に活かしている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 改善課題に関しては積極的。具体的には、①利用者を取り交す書類の整備、②浴室入口の間仕切りの設置、③家族を交えた定期的カンファレンスの開催、④連絡体制(情報共有)の徹底、⑤金銭管理規程の整備、⑥ヒヤリハット活動の実施、⑦地域交流のための行事の開催 …に取り組んだ。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) 評価項目を「業務向上指針」としてとらえ、全職員で取り組んだ。リーダーと管理者がそれをまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、利用者の代表者、家族、地域の代表者(民生委員)、地域包括支援センターの職員、ホームの職員…で構成し、2～3か月に1度の頻度で開催している。会議では、ホームからの現況報告とともに、ホームへの要望などを聴いており、ホームの夏祭りでは近隣住民やボランティアから多くの協力が得られ、また、地区祭りの「だんじりルート」にホームの前を加えてもらえるようになるなど、会議での討議が大きく実を結んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ケアマネジャー、管理者、担当者による、介護計画作成(見直しを含む)時の検討会議には、利用者家族にも出席してもらっている。また、家族から「子ども達との交流機会を作って欲しい」との要望も聴いており、今後の課題として検討する予定である。家族からの相談・苦情に関しては、管理者が全ての内容を把握し、適宜対応をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ホームの在る地区には自治会が無いため、現在は隣の地区の自治会に入会している。地域活動に参加することで、近隣の住民の方々と親しくなる機会も増えた。ホーム行事の際には必要な備品を貸し出して下さるなど、地元との協力関係が築けており、地域住民のための「地区防災マップ」と「防災対策の指針」を作成中でもある。



▲ 安全配慮の工夫  
椅子の脚をテニスボールで…



▲ プライバシー確保の徹底  
脱衣所の出入り口奥に暖簾を…



▲ 利用者との関係を育む工夫  
職員の特技(切り絵)も活かし…



▲ 居心地の良い共有空間づくり  
亀や熱帯魚をホームの皆で世話する…



▲ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
(協働による作品)



▲ 新人スタッフへ服薬管理の指導



▲建物外観（1階にデイサービスを併設）

▼リビングでの温かな雰囲気作り  
（手作りの大きなカレンダーや入居者の作品で…）



▲リビング兼食堂の横にある畳スペース



▲オープンキッチン（広く入居者の様子を見渡せる）



▲心身の状態が不安定な入居者への見守り(リビングの一角)

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム理念に「地域・信頼・人づくり」を掲げ、地域に住まう一家族(住民)として馴染むよう、日々理念の実現に向け努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム職員が一体となり、地元住民も参加できる行事(夏祭りほか)を行なうなど、地域に対して啓発・広報を積極的に行なっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々との交流のきっかけとして、積極的に地域活動に参加している。地域において存在感のあるホームを目指し、ホーム側からの地域還元にも取り組んでいる。	○	行事のほか、ホームでの学習会の開催など、地域に住む高齢者のニーズに応えた、グループホームならではの専門的な知識を伝えてゆく取り組みにも期待したい。地域の子どもたちとの交流に関しては、地域関連のご協力者に依頼をしてみてもどうか。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果の書面は各フロアーに置いている。評価改善項目について「サービス改善計画シート」を作成し、期間を定めて改善に取り組み、その評価を行なうなど、第三者評価制度を有効に活用できている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催により、その成果として、地域の多くの方々からホームに対してのご協力をいただけるようになった。行事(夏祭り等)には地域の方がたくさん来られた。また、地元の人たちから備品も貸していただき、交流が上手く進んでいる。		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの行事で使用する備品を伊丹市社会福祉協議会で借用することがあり、ホームの行事について介護保険課にへ報告した。制度改正など、必要な時は出向いていき指導を受けている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりについては、家族訪問時や電話にて随時報告をしている。金銭管理については、金銭管理規定に基づいて、3ヵ月毎に個別出納帳と領収書(レシート)のコピーを送付している。ホーム通信(便り)は現在作成中である。	○	現在作成中のホーム通信には、行事写真だけではなく、普段のスナップショットなどを盛り込んでみることも検討してほしい。家族への報告内容には、「できている事柄」と「できなくなった事柄」などを含め、より具体的な利用者の現状報告方法を検討願いたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近隣に住む家族が多いこともあり、ホームへの訪問は多くなされている。その際にホームに意見や要望を伝えることができている。家族アンケートからも家族意見を反映した介護計画書が作成されていることがわかる。苦情窓口については把握していない家族も見受けられる。家族から、「子ども達との交流機会を…」との要望がある。	○	苦情窓口については、別紙にするなどして、再度案内されることが望ましい。子ども達との交流については、運営推進会議の議題に挙げ、近隣施設の協力を求めてみていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の際は、利用者への影響を軽減できるよう臨機応変な体制を取っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政の主催する業務上の研修には積極的に参加し、ホーム内での研修はOJTを中心に行なっている。勉強会は、職員をグループ分けして行ない、その後、全職員に伝達報告する方法をとっている。地域に向けてそれらを還元していこうと考えている。	○	地域向け勉強会の実現に、大いに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修における研修生の受け入れのほか、ホーム夏祭り行事には他事業所(居宅介護支援事業所)の職員にボランティアとして参加してもらうなど、事業者間のネットワークができてきた。	○	行政や地域包括支援センターに協力を仰ぎ、近隣グループホームなどで構成される連絡協議会を立ち上げ、同業者ネットワークを、より機能するものとして構築していただきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホーム見学も兼ねて遊びに来てもらうようにしている。場合によっては、併設するデイサービスを利用しながら、ホームに馴染んで頂く場合もある。入居後状態が落ち着くまでは、家族に対して訪れる頻度を多くしてもらったり、電話をしてもらうなどの協力を得ている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	生活リハビリを中心に、自室や廊下の掃除機かけ、洗濯物たたみなどの作業をしてもらっている。職員も入居者からいろいろと教えて頂いたりしながら、リビングや各居室でコミュニケーションを図っている。介護日誌は記入項目を記号化して記入時間を短縮するなどして、その分、利用者と接する時間を増やしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員が日常会話、行動の中から意向を聴き出し、本人の希望に沿った援助計画を立てている。意思疎通が難しい利用者の場合は、表情や仕草からその人の思いを汲み取る努力をしている。利用者の外泊希望も、家族に協力を得て実践している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス計画作成のための検討会議には、ケアマネジャー、管理者、担当者だけではなく、家族にも出席依頼をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	フロー会議を行ない3か月毎にその目標の達成度を含めモニタリングを実施している。内容を別紙評価シートに記入し、それらを介護計画の更新に生かしている。個別カンファレンスについては、定期的には3か月毎の更新時に行ない、変化がある時には随時開催している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事は1階に併設したデイサービスと一緒にやって行なうなど、柔軟な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する医療機関での受診を支援している。医療機関との間で医療情報を共有できている。提携のクリニックの医師に主治医になってもらい、訪問診療も行なわれている。提携クリニック以外にも脳神経内科、循環器科、皮膚科の訪問診療を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算はとっていないが、提携クリニックの協力による24時間体制が確保されている。症状が重度化した場合や終末期のあり方に関する書類を現在作成しており、意向に沿ったケアを展開できるよう努めている。	○	終末期ケアに関して、早い段階で、ホームの方針について利用者別に伝え、家族を交えて話し合っていたり、そのためにも、関係書類の早期作成・開示をお願いする。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各種記録書類はスタッフルームで管理されている。職員の言葉かけや対応方法に「気付き」があった場合は、お互いに注意し合うようにしている。脱衣室のプライバシー確保については出入り口の奥に暖簾をかけるようにした。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールは設けてあるものの、一般家庭のように、ごく自然に生活できるよう心掛けている。最低限の生活リズムを保ちながらも、細かい時間設定はなるべくせずに、個々人のそのときどきの思いを大切に過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の個性を把握し、盛り付けや後片付けなどを利用者と協働している。食材は業者によって提供されているが、臨機応変にメニューを変更することもある。職員もテーブルにつき食事の時間を一緒に楽しんでいる。行事の時にはバイキング形式や屋台形式をとってみたりもしている。時々、利用者と一緒に外食に出かける。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴パターンを各職員が把握している。入浴を嫌う利用者には足浴の対応もしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活においては、食事準備や味見、食器拭き、洗濯物たたみなどの役割がある。その他、趣味の写経や室内の飾り付け、物造りなどを職員と一緒にこなしている。日常では、歌を唄ったり、カードゲームをしたりもしている。ボランティアによる演芸やマジックショーも開催されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望する利用者はもちろん、外出を好まない利用者にも、職員の声かけによって、買い物の同行、散歩や外気浴をするように支援し、ホームに閉じこもらないように工夫している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各職員が常に見守りを行ないながら、できる限りは玄関の鍵をかけないようにしているが、帰宅願望の強い利用者のその時の状態によっては、やむを得ず玄関を施錠することもある。。ホーム内は、1階から3階まで自由に移動できる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルを整備し、全ての職員が災害時の対応を理解している。年に2回、消防訓練を行っている。消防署に依頼して心肺蘇生法講習会を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーはメニューで把握されている。摂取量についても毎回記録されている。水分摂取量についても制限のある利用者や摂取量が少ない利用者に対しては、注意を払いながら記録を取っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには、季節の草花や木々を植えている。玄関には手作りの置物を飾り、利用者と職員が共同で作った小物をバザー形式で販売している。リビングでは熱帯魚や亀を飼育しており、利用者と職員がともに世話をしながら日々楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者自身が好んで使っていた物や、自宅で愛用していた馴染みのある家具等（鏡台、仏壇、写真、雑誌など）を自室に置き、居心地よく過せるようにしている。多くの私物を持ち込むことで「家族に捨てられた」との感覚を持ってしまう利用者については、家族と相談を重ね、あえて必要な物品のみを持ち込んでいただくことにしている。		

※  は、重点項目。